

オランダ自転車市況-2014

1. 全体の販売動向

RAI(オランダ車輛工業会)、BOVAG(オランダ自動車自転車商業組合)によると、2014年のオランダ自転車市場の販売台数は前年比4.3%増の105.1万台となり、2008年以来続いた減少はようやく止まった。販売金額についても、2014年は前年比11.2%増の8億8,661万ユーロ(1,152億5,930万円)と前年より高い伸びを示し、ここ数年、停滞気味であったオランダの新車販売は2014年には台数・金額ともに増加する良好な結果となった。その主な理由は、高額な電動アシスト自転車(EPAC)の販売が好調であったためとみられる。

平均販売価格については、上述のEPAC販売の好調により、2014年は自転車販売業全体で前年比6.7%増の844ユーロ(109,720円)に上昇し、一気に53ユーロ(6,890円)増加した。その一方、従来から高額商品の取り扱いが多い自転車小売専門店の平均販売価格は、全体の平均価格よりは高額であるものの、同比1.5%減の974ユーロ(126,620円)とわずかではあるが減少した。

表1: 自転車販売台数及び金額

年	2010	2011	2012	2013	2014
販売台数(万台)	121.5	119.8	103.5	100.8	105.1
販売金額(万ユーロ)	88,434	87,924	76,916	79,726	88,661

表2: 平均販売価格 (単位:ユーロ)

年	2010	2011	2012	2013	2014
平均価格(全体)	728	734	743	791	844
平均価格(自転車小売専門店)	920	960	964	989	974

2. 業態別、価格帯別販売動向

業態別売上比率は、「自転車小売店」は前年より3ポイント増え71%となり、2011年以降低迷が続いたシェアは回復した。それに伴い、ディスカウントストアやネットショップを含む「量販店、スーパーなど」は前年より3ポイント減の29%となった。かつては75%前後の高い比率を維持していた自転車小売専門店の売上比率は、ここ数年、7割の大台を切るまで落ちこんでいたが、2014年は再び7割まで回復した。

オランダの消費者は品質やサービスを重視し、自転車小売専門店で購入を希望する傾向が依然として強く、特にEPAC購入の場合はその傾向が顕著となり、安価な輸入車よりも高品質の自国ブランド車が好まれる傾向は今後も続くと思われる。

価格帯別売上比率は、2007年頃までは3割を占め最多比率であった300ユーロ(39,000円)以下の最も低い価格帯は、年々減少を続け前年より4ポイント減少し2014年は最少比率となった。それに次ぐ301~499ユーロ(39,130~64,870円)の価格帯は2ポイント増、中価格帯の500~699ユーロ(65,000~90,870円)は昨年より1ポイント増、更に高価格帯700~899ユーロ(91,000~116,870円)は前年より2ポイント増となった。一方で、最高価格帯900ユーロ(117,000円)以上は3ポイント減となったものの、依然として最高価格帯が最多比率であることに変わりはなく、全般的には低価格帯から中・高価格帯への移行が続いている。

表3：業態別売上比率

販売形態	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
自転車小売専門店	73%	69%	66%	68%	71%
量販店、スーパーなど	27%	31%	34%	32%	29%

表4：価格帯別売上比率

価格帯(EURO)	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
300以下	25%	22%	22%	18%	14%
301~499	20%	18%	11%	15%	17%
500~699	14%	14%	17%	21%	22%
700~899	20%	21%	20%	18%	20%
900以上	21%	25%	30%	30%	27%

3. 車種別販売動向

車種別売上比率では、オランダで人気の高いシティ車(ダッチバイク)を含む一般用自転車が例年同様に最多比率を占め、前年より1ポイント増加した。また、ハイブリッド車(クロスバイク等)は前年より1ポイント減となり、子供車も前年より1ポイント減少した。その一方で電動アシスト自転車(EPAC)は前年より4ポイント増の21%となり、例年にも増して高い増加率を見せ、一般用自転車に次ぐ第2位の車種として、車種別比率で2割を超えるまでに成長した。2014年のEPAC販売台数については、前年比16.1%増の22.3万台となり、2012年には販売台数が減少し伸び悩んだが、その後は再び増加を続けており、2014年には20万台を超える伸びを見せた。

更に電動アシスト自転車(EPAC)よりもモーター出力やアシスト速度が高い、いわゆる「Speed Pedelecs」については、元々高額なスポーツ車等の需要が高く、比較的起伏の多い地域特性のドイツ南部やスイス等において普及が先行していた。特にスイスはEPAC最大市場のドイツよりも先行しており、2014年スイスの電動自転車販売数5.7万台のうちEPACは4.2万台でSpeed Pedelecsは1.5万台を占めるまでに成長している。一方、EPACブームの先駆けであるオランダでは普及の度合いは緩やかだった。しかしながらここ数年、オランダでもSpeed Pedelecsを取り扱うメーカーが徐々に増えており、EPACより更に高額なSpeed Pedelecsが自転車大国オランダにおいても普及が進むのか、今後の販売動向が注目される。

表 5: 車種別売上比率

車種	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
一般用自転車	53%	53%	51%	50%	51%
ハイブリッド車	10%	9%	8%	8%	7%
子供車	14%	14%	14%	13%	12%
電動アシスト自転車	14%	15%	17%	17%	21%
その他 ※	9%	9%	10%	10%	9%

※その他には MTB/ATB、ロードレーサー及び折りたたみ車が含まれる

表 6: 電動アシスト自転車販売台数 (単位:万台)

年	2010	2011	2012	2013	2014
電動アシスト車販売台数	16.6	17.8	17.5	19.2	22.3

4. 新たな流れ

オランダ自転車業界は、バタバス、スパルタ及びコガなどのブランドからなる欧州最大の自転車企業アクセルグループや、大手メーカーのガゼレや中堅メーカー・ユニオンを傘下に収めた PON グループ等といった、自転車製造業の動向に注目が集まることが多かったが、最近、自転車小売業でも大きな変化がみられた。

国内大手の自転車購買団体の Bretco は、別の購買団体 Bike Totaal と本年初めに合併し、新たに Dynamo Retail Group となった。この新団体はオランダ、ベルギーを中心に自転車小売店 750 の会員を有し、欧州随一の購買力ともいわれるドイツの二輪車購買団体 ZEG に次ぐ欧州 2 番目の規模となった。小売専門店の販売シェアが 7 割も占める同国自転車市場へ進出の際には同団体の動向に注視が必要である。

一方、小売専門店と量販店の間程度程度の価格付けの商品展開により、一時は国内 150 店余りも数えた自転車・カー用品チェーン; HALFORDS (NL) は、業績低迷により 2014 年に破綻したが、現在は 45 店舗程に規模を縮小して再出発している。

なお、毎年 1 月開催の自転車小売店向け商談会「FietsVAK」は、2014 年に内容を刷新し、消費者向けレジャー展「The Bike & Hike」と共催により 3 月開催となった。その時のユーザーである消費者の反応を踏まえ、主催者 RAI は更に刷新を図った。2015 年は会場をアムステルダム中心部から郊外のスキポール国際空港近く、ハールレンメルメール EXPO に場所を移し、消費者向けの EPAC 試乗会「National E-Bike Testing Days」と銘打ち、2015 年 2 月 28 日と 3 月 1 日の両日開催した。期間中は 7,000 名余りのユーザーが集い、翌日 3 月 2 日は自転車小売店向けビジネス展「FietsVAK Day」も開催した。同国で続く EPAC ブームに焦点を当て、業者向け展示会から消費者へ EPAC 訴求するための試乗会を優先する形をとった。今後、オランダにおける電動自転車の普及状況を知る上で、本催事の動向にも注目したい。

以上

統計出所: RAI/BOVAG